



令和6年8月27日

岩倉市議会

議長 関 戸 郁 文 様

会 派 名 創 政 会

代表者名 須 藤 智 子

創政会行政視察報告書

このことについて、下記のとおり実施しましたので報告いたします。

記

1 実施日 令和6年8月8日(木)

2 視察先 大阪府豊中市

3 出席人数及び氏名

4名	須 藤 智 子	伊 藤 隆 信
	梅 村 均	片 岡 健 一 郎

4 復命事項

別紙のとおり

創政会行政視察報告書

作成者：梅村均

【日 時】令和6年8月8日（木）13:30～15:30

【視察先】大阪府豊中市

【参加者】須藤智子 梅村均 伊藤隆信 片岡健一郎 計4名

【テーマ】1. 小1の壁解消に向けた取組み

2. 放課後こどもクラブの充実に向けた取組み

その他. 豊中駅図書サービスポイント利用（施設見学）

【説明者】（朝7時小学校校門開放）学校施設管理課 桑田課長 小嶋さん

（入会要件、習い事、夕食提供）学び育ち支援課 松本課長 小林課長補佐

【主な内容】

《豊中市の概況》

- ・人口：約398,087人 面積：36.60km²（市街化区域100%） 議員定数：34人
- ・冒頭紹介ビデオあり（飛行場や大阪駅にも近い住宅都市）

1. 小1の壁解消に向けた取組み

- ・R5市長が宣言、子育てしやすさNO.1を目指し、今後5年間で約100億円規模の集中的な投資を実施し、子育て世帯が将来にわたり住み続けたいまちを掲げている。
- ・R4から市内で暮らしやすさ向上プロジェクトをつくり検討してきたもの。リーダーは厚生労働省からきた副市長。

《朝7時からの小学校の校門開放》

- ・保育所での預かり時間が7時であるのに対し、小学校での開門時間が8時であることから、保護者の就労関係に影響があり、保育所と同様な時間となるよう朝7じからの校門開放を実施。あくまでも見守り事業である。
- ・背景としては、8時前に学校によっては校門前に子どもたちが待っている学校があった。多いと100人ぐらいの時も。門だけは開けて、下駄箱まで入れるようにしていた学校もあった。
- ・市職員からも早く登校できると良いという声があがっていた。
- ・教育委員会では、働き方改革の観点や早い時間の預かりなどに教員から反対の声があったが、7時から8時で学校の門を開けることぐらいしかできない。預かりをやっていくことになった。体制内容は考えていく必要があった。
- ・この時間、冬や春先はまだ暗い。子ども一人で通うのは安全面で怖い。やるやらないは政策会議で決めることになった。
- ・学校以外の預かるサービス、例えばファミサポもあったが、学校までどうやっ

- てくるかの課題が出て、やはり預かるなら学校かなとなった。
- ・ただこれは、保護者ファーストであって、子どもファーストではない。
 - ・共働きも増え、社会が変わっていることはわかるので、宣言した以上対応が必要だが、行政だけではむずかしく、企業など社会全体が変わらなければならないのではないか。社会に風穴を開けるつもりで考えた。
 - ・明石市ではないが豊中のブランド力の向上のためにも行っている。
 - ・登録制で実施し、随時受付可能である。(利用日時までの申請は必要ない)
 - ・体制としては3名で1名は警備員で門に立つ人、2名(警備会社へ依頼しているが、放課後居場所づくり事業があり、その事業を受託した業者と今年度については随意契約した。今後は入札でこの事業に含めて決めたい。)は見守り担当としている。2名で不足は感じていない。学校の先生は関わっていない。ボランティアでやりたいという問い合わせもある。
 - ・予算は、7,100万円(見守り員2名×39校×2時間) *学校で授業がある時のみ
 - ・警備員はこれまでも一人つけていた。(池田小事件の名残)警備員の時間を変更して対応した。(7:00~9:00→6:30~9:00、13:30~17:00→13:00→17:00)
 - ・子どもたちは、グラウンドや体育館で過ごす。教室には入れない。
 - ・校庭で遊ぼうのマニュアルを参考にしている。見守り員にはマニュアルを配布している。朝はできるだけ静かに過ごそうとしている。
 - ・現状39校で850世帯の登録がある。
 - ・実利用の現状としては、4月から延べで、1日2~10人平均である。(GW以降ちょっとずつ利用者増加)このサービスの周知のタイミングが遅かったので、保護者の働き方への調整が終わってしまっていたことも要因があると思うが、早めの周知で利用者は増えるかもしれない。
 - ・登校については、保護者の送迎をお願いしている。利用者が個別に登校。この通学時間に子供と保護者の会話ができるのがよい。(もともと集団登校は実施していない)
 - ・三鷹市でも実施されているが、今やっている仕組みが最終形ではなく、今後ブラッシュアップが必要である。
 - ・企業版ふるさと納税でもできないものかと考える。

《主な質疑応答》

問 利用状況は。

答 事前登録制(年間単位)としている。7月19日現在、全39校で850家庭の登録あり。実利用については、2月記者発表、3月から報道機関で周知され

たが、保護者の会社との調整には間に合わなかったかもしれない。延べ、1日平均2人ぐらい。学校によっては10名ぐらいのところもあり。GW明け以降は少しずつ利用者増える。この2人については少ないとは思っていない。ファミサポなど様々なサービスもあるし、何かあった時の安心感につながっているサービスと考えている。

問 通常の登校スタイルは。

答 全校集団登校ではない。多くの学校は個別、友達同士などでの登校スタイル。一部PTA主導で集団登校している学校もある。

問 解放しているのはグラウンドだけか。

答 グラウンド開放は放課後居場所づくり事業のことになる。体育館、多目的室も可能。教室には入れない。(学校教育活動ではないという整理をしてあくまでも市の事業としているため)

問 見守り員2名で全校で78名、警備員含めると117名を一斉に集める必要があったと思うが苦労はあったか。

答 警備員はもともと採用していたが、見守り員2名については、先ほどの「校庭であそぼう事業」からになるが、3つの事業者が受託しており、一つの事業者12校ぐらい受け持つが、確かに朝早く集まるか心配の声があった。しかし、マスコミ報道があり、やってみたいという声が多かった。会社員生活リタイアした人など、社会貢献できないという問い合わせもあった。グラウンドで遊ぼうと兼ねている人もいるし、ローテーションでできるよう一定の人数を確保して対応しているようだ。

意 岩倉市は学校内に放課後子どもクラブがあるが、人材確保が心配の状況であった。

答 放課後子どもクラブの朝バージョンの話もあったが、今、1-4年生が対象になっているため、5,6年生が外れてしまうことや、放課後子どもクラブの指導員という立場では、欠員がでており、増員が難しかった。ここでの取組も将来的には必要になってくるとは思う。

問 この事業を始めるにあたり、幼児の年長などへのアンケートなど調査はされたか。

答 特に調査はしてない。小1の壁の課題への対応ということで進んだ。

問 このような取り組みは全国初か。

答 関西初と思う。関東では三鷹市があるが、教員も関わっているようだ。

問 教育の壁は高いか。同じことを岩倉市で導入するのはむずかしいか。

答 市長の決断と議会の理解(すんなり通っていない、反対意見もあった)が必

要。横浜市が導入するなど、全国的に広がりつつあるようなので、そういった背景を利用するのも一つ。担当課との話し合いも必要ではないかと思う。

問 これまで取り組んだ中で、特にトラブルはないか。病気など。

答 子ども同士のコミュニケーショントラブル程度はあるが、大きなものはない。見守り員も見守りしかできない。注意はするが、あくまでも見守り。

問 警備員と見守り員は同じ場所に居るか。

答 警備員は門で、見守り員は体育館など。

問 見守り員に対する、指針はあるか。

答 マニュアルがあり配られている。朝の場合は静かに過ごしてもらうのを基本としている。走りまわったら注意してね。怪我したら応急処置してねといったもの。

問 100億円規模の予算はこの事業を含む様々な事業のものか。

答 そのとおり。

問 延べ実利用者2名でもやろうというのは、市長の気持ちか。

答 それよりは保護者の安心感である。

問 費用対効果をどう考えるか。

答 議会からも言われているが、今が完成形ではない、今後ブラッシュアップしてより良いものにしていく。(議会との約束事にもなっている) アンケートを6月にとったところ、保護者の安心感の声はあり、また、もう少し早く知って入れば利用したかったという声もある。人事異動になった保護者もあり、来年度は早めに周知をして取り組みたい。

意 保育所等の延長の預かり対応を含めこういったサービスは報道でもよく取り上げられるが、実際の利用者となると少数(わずか)であることが多い。ただ、少しでも必要とする人がいるならば行政サービスとしてやっていくこともある。費用対効果を言われるがむずかしいところ。

答 課題を検証しながらやっていく必要がある。今後は、長期休暇も開けてほしいという声もあるし、学校内にある学童保育対象児童に限るのかどうかといった課題もある。他の部署との連携、サービスどうしのつなぎをどうするかなど考えていくと、利用者も増えていくのかなと思う。あとは、利用率でみるのか、登録人数からみる安心感なのかといったところもある。子育てしやすいまちとして、市全体の子供向けサービスが備わっていることも大事でその一つという考えもある。その他、企業版ふるさと納税への展開も考えている。

《こども園と放課後こどもクラブ入会要件を統一》

- ・こども園は岩倉市でいう保育所である。
- ・小1～4年生を対象としている。全39校、学校敷地内で、空き教室やプレハブで運営している。
- ・小学校全児童数：22,070人 放課後子どもクラブ利用者5,121人 23%
(分母を1-4年生にすると34.8%) 毎年増加傾向である。
- ・現在、定員はなしとしている。入会要件満たせば入れる。H27年では、入会児童数3,243人が、約10年で2,000人増加
- ・クラブ室も今104室ある(全39校)
- ・ハード(環境)の充実として、クラブ室1室あたりの児童数の見直しに取り組んでいる。国の示す1室40名を目指す。(現在は70-80名程)
段階的に、必要な学校へ行き、部屋を確保していく
- ・サービス面の充実として、こども園と放課後こどもクラブの入会要件の統一に取り組んでいる。
- ・こども園と放課後こどもクラブとの入会要件が違うことから小1の壁が生じている。
- ・例えば、就労の状況として、こども園では月64時間就労していれば入園できるが、クラブでは、平日週3日以上勤務かつ14:30に不在であることが要件となっている。育児休業中についてはこども園は入園できるが、クラブは入会できない。就職活動中については、こども園は入園できるが、クラブは入会できない。この辺りを解消していきたいとし見直し中である。令和8年には、違っている要件を統一していきたいとして取り組んでいるところ。

2. 放課後こどもクラブの充実に向けた取組み

- ・その他、預かり時間延長、休日開設、学校習い事「放課後 select」、夕食の提供、といったものがある。
- ・休日開設はこの4月からスタートした。こども園で市内2か所実施。
- ・その他3つのサービスを実施する課題として、直営だけでは、持続可能な運営が難しいと考えている。R6年度時点で2校については丸ごと民間委託のクラブ運営を実施している。民間ノウハウが必要である。
- ・R7年度からは、5校加えて計7校の委託予定で進めている。この7校から、上記3つのサービスを実施していきたい。

《学校で習い事「放課後 select」》

- ・放課後 selectについては、民間のノウハウがある。(英語、プログラミング、スポーツなど)。来年度から民間委託したクラブで実施予定であるが、保護者や子

どもにニーズを調べながら、種類や頻度を週1回か月1回かなどクラブにいる時間が充実するよう決めていきたい。

- ・これらのサービスはオプションとして選択制サービスとして考えている。委託料としてはこれらのサービス料は含まれていない。業者とクラブの入会者とが契約して実施する。無料のものもある。有料でも数百円や材料費のみなど低廉でできるよう打合せしている。
- ・例えば英語については、オンラインでネイティブの人に授業してもらうなどの考えもある。民間のノウハウがあるようだ。特別な資格等は不要と考えている。

《夕食の提供》

- ・夕食の提供については、預かり時間の延長とセットで考えている。
- ・通常の預かりは17時であるが、最大19時まで預かれるようにしている。就労状況によっては20時まで対応もある。延長は、預ける人のニーズにより違うので、延長時間の部分は業者と直接契約して運営してもらうことを考えている。
- ・預かり時間を延長した場合に、おなかもすくので必要があれば夕食を提供できるように考えている。夕食における予算も無く、利用者と事業者の直接のやりとりを考えている。メニュー、仕組みについてはデリバリー形式（民間事業者が契約しているお弁当など）で用意してもらうことを想定している。
- ・現在、3期の休業中については、お弁当のデリバリーをやっている。学校給食の請負事業者と利用者が直接契約している。必要な場合はお弁当を運んでもらえる。夕食の提供についても同じように実施されるのではと考えている。

《主な質疑応答》

問 入会要件の統一については、どちらに合わせようとしているのか、又はミックスしていくのか考えは。

答 こども園の方が要件が緩い。放課後クラブの方が厳しいので、こども園の方に寄せていく（緩和する）方向である。より入会しやすくするように。

問 こども園の待機児童の状況は。

答 ずっと出ていなかったが、去年から少しある。

問 放課後 select について、このようなことができる事業者を探すのか。

答 民間事業者の選定にあたってはプロポーザルである。実は募集の中で放課後 select を提案してもらっている状況がある。こういったものができる事業者を選定していきたい。

問 放課後 select での習いたいことの費用はどのようになるか。

答 放課後こどもクラブの会費とは別にオプションというサービスの位置づけ

である。全員が無料で受けれるサービスもあるが、材料費程度の数百円程度で受けれるようにと考えている。希望者に対して、事業者が習い事のサービスを提供してもらうことを考えている。内容については、運動系は場所の課題があるなど課題はある。メニューは民間事業がかなりの数を持っている。一人ひとりの希望で実施するのではなく、おそらく多い希望のものを実施することになると思う。来年度から実施予定である。

問 定員がないのに驚いている。長期休暇など、どのような状況で対応はどのようか。

答 5/1入会時で5,121人いるが、実際の出席は7割ぐらい。夏休みは8割ぐらい。夏休みは、学校の授業がないので、教室を貸してもらえよう調整している。課題は見る人（職員）の数が必要数と実際人数に差があり、やりくりが課題である。

問 要件緩和で今後利用者は増加していくと思うが、40人に一人を目指すことは可能か。

答 クラブ数（部屋）を増やしていくことになるが、持続可能な観点からも直営だけでは、職員の雇用が必要になるので、民間委託もミックスしながら体制を整えていきたい。指導員の確保はどこ自治体も苦労されていると思う。

問 4年生までが対象となっているが、5、6年生を預けたいという声はあるか。

答 ある。市民の声で月に数件ある。現状は一部屋70人の状況があるので、まずはこちらを解消してから、5、6年生のニーズにこたえられると良い。

問 民間委託をしていく上で、市としての契約の範囲があるのか。（オプションなど分けて委託することができるのか）

答 預かり時間でいくと、19時までの預かり時間で市と契約しているが、それ以降の預かりについては、事業者と保護者とのやりとりになる（来年度の計画）。市も調整はするが、お金については市を通らない。把握は事業実施しているのは市なので行っていく。

問 預かり料について、平日6,000円はこの辺りの相場か。（岩倉市は3,000円）

答 自治体ごと違いはあるが、大体この辺りの相場であるが、平均より少し高いぐらいかと思う。

問 夕食サービスの利用者や料金は大体見当がついているか。

答 今やっている3期休業中のお昼の弁当でいくと550円だったと思う。同じくらいでできればと思う。利用人数はまだ読めない。延長しても食事は必要ない人もいる。今年度19時ぎりぎりに迎えに来る人での予測もあるかもしれないが、仕事の変化など状況も変わる可能性があるから読めない。

問 ある程度の方がそろわないと配達する業者も無いように思えるが、一つでも実施される考えか。

答 市内全域を対象としているので、その施設が一つだとしても、全体で一定数あれば実施可能と考えている。(配送ルートも決めている)

問 3期休暇中のお弁当の利用率は。(岩倉市は利用者がお弁当持参する)

答 15%ぐらい。

問 委託業者は1社になるか。

答 1社である。

意 弁当持参の場合、預ける前に作るのも大変であるし、暑い夏のお弁当の保管も気になるところで、できると良いサービスと思う。

問 欠席した人のおやつを持ち帰る取組みはどのようなものか。

答 今はやっていない。今は、17時以降の延長を利用する人のみおやつを持ってきてもらい冷蔵庫で保管して必要な時渡している。以前やっていたが、廃棄ロスやコロナの問題、アレルギー対応の課題などで、令和2年12月におやつを提供をやめた。

3. その他（施設見学）

《豊中駅図書サービスポイント利用》

- ・豊中駅改札を出た通路の店舗スペースに市立図書館の書籍を借りたり、返却できる拠点がある。無人のサービスポイントである。
- ・市の読書振興事業の一環で、通勤や通学で駅を使う市民の図書館利用促進策
- ・約44平方メートルの室内に約4000冊の書籍を保管できる。
- ・職員が1日2階、本の回収や配達に訪れるがそれ以外は無人である。
- ・月曜を除く平日は午前10時から午後8時まで、土日は午前10時から午後5時まで開館
- ・利用者はオンラインで事前に読みたい本を予約すると、職員が書籍を用意し、予約照会機やセルフ貸出機を利用して手続きを済ませる。返却は専用のポストで行う。
- ・若者の利用減少傾向対策としてのねらいもある。
- ・入口には持ち去り防止のためのセンサーも設置されていた。

【所 感】

今回、岩倉市では子ども真ん中応援サポーターを宣言したことや市民から小1の壁の問題に悩まされている声もあり、子育て支援策の更なる充実を求め、先進事

例のある豊中市を視察しました。

「朝7時からの学校開放」については、現在本市の保育園における朝の時間帯に預けている人数を事前に調査したところ多い人数ではなく、どのくらいのニーズ量があるか疑問ではありました。豊中市でも利用者は1日平均2名程度ということでありました。事業の費用対効果が気になるところでありますが、市のイメージをつくる数ある子育て支援策の一つであることや、登録世帯数は一定ありこの事業が子育ての安心感になっていること、また、周知のタイミングなどこれからブラッシュアップしていく事業であることを知り、考え方によっては有効な事業であると感じました。

「放課後こどもクラブの充実」に向けた施策については、習い事を加えたり、夕食を提供する取り組みなどの導入が検討されていましたが、共働き社会においては、こうした更なるサービスの拡充が必要になってくることを改めて感じました。本来ならば、3世代で同居や近居をすれば、預けることなく家庭でできる範囲という考えを持ちつつも、行政が社会情勢を見ながら子育て施策を最優先にするという中では、取り組む必要があるとも考えます。今後利用者数が増えた場合、指導員の確保は共通の課題ではありますが、学校敷地内に施設ができたことで、学校の教室が使えるよう調整していることは参考にしたいところです。また、利用料金や直営のみならず民間のノウハウを活用しながらの運営も参考にしたいと感じました。

ちなみに本市では、3期休暇中の児童クラブでは、利用者がお弁当を持参していますので、事業者によるお弁当の配達が可能になるサービスの導入は提案したいところです。

今回の視察事例を参考に、小1の壁に対する声にアンテナを立てながら、こども真ん中の応援宣言をした市政をチェックするとともに、施策等の提案も考えていきたいと思えます。と同時に、これまであった児童館施設は利用者が減少したので、有効に活用されるのかも注視していきたいところです。

【参考用写真】

豊中駅図書サービスポイント

